

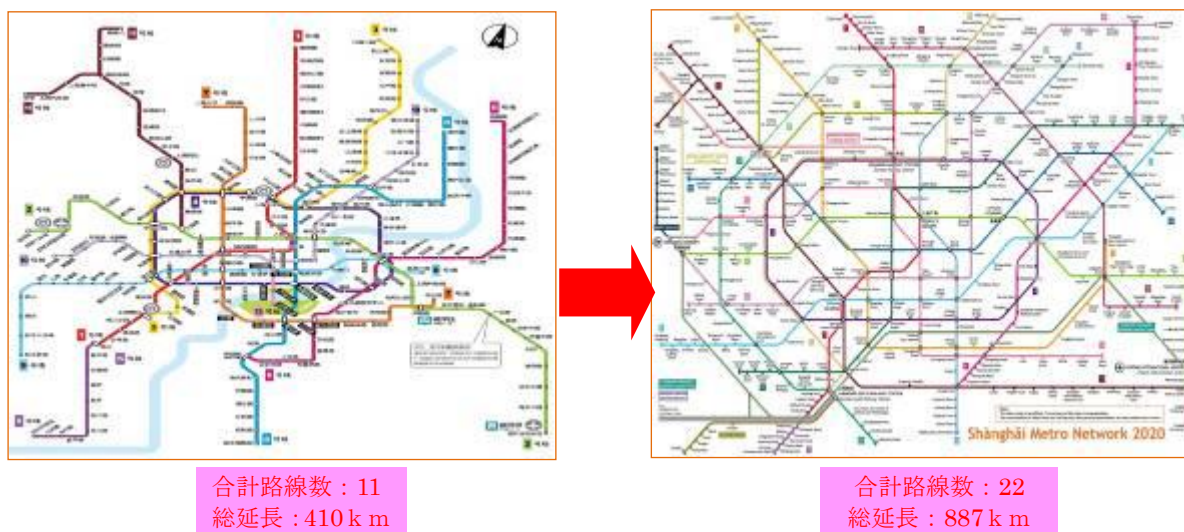
第1節 上海の商圈概況

1. 地下鉄視点で見る上海商圈

ここ数年、上海の地下鉄は一年間に何本も新路線が開通していてその増加スピードはすさまじい。詳細は後述をご覧ください、2011年8月現在11本運行中の地下鉄は、2020年までには倍増し22本となる見通しだ。地下鉄インフラのめざましい拡充が市民や旅行客のショッピングの流動線に影響している。いまや複合商業施設の立地やブランドショップ出店候補地選定や、ブランディングなどの戦略は、「地下鉄」がもたらす人の流れの考慮なしでは進まないほど重要性を帯びてきた。前号でも見たが、日月光中心広場のように巨額の建設費をかけても地下鉄の出口をすべて店内に導入するデベロッパーがいるほど、地下鉄乗降客の流れは無視できない段階に上海は来ている。

本編では、現在上海で営業運行している11本の地下鉄の沿線を取り上げ、それぞれの沿線商圈中の主要百貨店の立地とその事業概要、百貨店グループの区別、地下鉄と百貨店の関係、駅出口の位置で変わる人の流れの変動などについて分析することを目的とする。2011年8月現在の上海地下鉄路線網

2020年の上海地下鉄路線網(予定)



2020年には路線数が22本となり、そのうち2～3線乗り入れや、一部4線乗り入れの複数路線駅が多く誕生するのは当然である。同時利用可能な路線が多いと、その駅の乗降客増加は言うまでもなく、現状繁栄している既存商圈では、利用可能な地下鉄路線が増えるほど、これまで以上の集客が期待できる。また、逆に、複数路線乗り入れ駅に、新たな開発によるランドマーク的な大型商業施設・商圈が建設される可能性も高い。しかし、その際には、未熟な商圈は専ら地下鉄による客の流れに頼ることになる。外国ブランドが中国での認知度の低さを克服すべく有力商圈への店舗進出を目指す場合、地下鉄と共榮してゆく沿線商圈の動向を見逃してはならない。ここでは、地下鉄1～8号線の状況を考察しよう。

1号線

・開通時期:1995年4月開通 ・運行距離:37キロメートル ・設置駅数:28駅 ・最短間隔:約 2分 45秒

・シンボルカラー:赤色 ・営業時間:5時半～22時半(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①沿線上に商圈が多い(6つ)。②鉄道ターミナル駅2箇所通過、観光客が多い。③郊外ベッドタウン閔行・宝山区民の利用多数、④開通後の路線周知度高く、観光客も熟知。

沿線商圈:既存5箇所、建設中1箇所

●既存商圈:①新客站不夜城商圈(上海火車站駅)②南京東路商圈(人民広場駅)③淮海中路商圈(黄陂南路駅、陝西南路駅)④徐家匯商圈(徐家匯駅)⑤南方商城商圈(蓮花路駅)

●建設中商圈:大寧商圈(上海馬戯城駅)

2号線

・開通時期:2001年1月開通 ・運行距離:60キロメートル ・設置駅数:30駅 最短間隔:約 2分 45秒

・シンボルカラー:緑色 ・営業時間:5時半～22時45分(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①沿線上にオフィスビルが多い。②上海の2つの国際空港を繋いでいる。③利用者にホワイトカラーなど高所得層が多い。

・沿線商圈:既存6箇所、建設中1箇所

●既存商圈:①新虹橋商圈(婁山関路駅)②中山公園商圈(中山公園駅)③南京西路商圈(静安寺駅、南京西路駅)④南京東路商圈(南京東路駅)⑤張揚路商圈(世紀大道駅)⑥陸家嘴商圈(陸家嘴駅)

●建設中商圈:⑦虹橋空港商圈(虹橋空港駅)

3号線

・開通時期:2000年12月開通 ・運行距離:40キロメートル ・設置駅数:29駅 ・最短間隔:約 5分

・シンボルカラー:黄色 ・営業時間:5時25分～22時半(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①上海の2箇所の国鉄駅を繋いでいる。②ベッドタウン宝山区内の走行距離が長い。③4号線と一部同軌道を走行する。④上海初の全線地上高架軌道。

・沿線商圈:既存2箇所、建設中2箇所

●既存商圈:①新客站不夜城商圈(上海火車站駅)②中山公園商圈(中山公園駅)

●建設中商圈:①武寧路エリア(曹楊路駅)②四川北路商圈(虹口足球场駅)

4号線

・開通時期:2005年12月開通 ・運行距離:33.6キロメートル ・設置駅数:26駅 ・最短間隔:約 5分

・シンボルカラー:紫色 ・営業時間:5時半～22時半(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①上海唯一の環状線型の地下鉄。②多数の地下鉄と乗り換え可能。③すべて高架線内環状線の内側にある。

・沿線商圈:既存5箇所、建設中1箇所

●既存商圈:①新客站不夜城商圈(上海火車站駅)②中山公園商圈(中山公園駅)③上海体育館エリア

(上海体育館駅)④浦建路エリア(塘橋駅)

●建設中商圈:⑤武寧路エリア(曹楊路駅)

5号線

・開通時期:2003年11月開通 ・運行距離:約17キロメートル ・設置駅数:11駅 最短間隔:約 5分

・シンボルカラー:青紫色 ・営業時間:6時～22時30分(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①4両編成の短い車列。②運行距離は一般路線の半分程度。③南北両方向への延長を計画
中。

・沿線商圈:既存1箇所、建設中0箇所

●既存商圈:①莘庄商圈(莘庄駅)

6号線

・開通時期:2007年12月開通 ・運行距離:約33キロメートル ・設置駅数:28駅 最短間隔:約 3分半

・シンボルカラー:濃桃色 ・営業時間:5時半～22時半(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①車両のキャパシティが小さい。②唯一の浦東地区内限定地下鉄。③朝晩ラッシュ時は非常に混雑、ほかの時間帯は閑散。

・沿線商圈:既存1箇所、建設中1箇所

●既存商圈:①張揚路商圈(世紀大道駅)

●建設中商圈:①金橋商圈(金橋路駅)

7号線

・開通時期:2009年12月開通 ・運行距離:約44キロメートル ・設置駅数:32駅 ・最短間隔:約 5分

・シンボルカラー:やまぶき色 ・営業時間:5時30～22時30分(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①2010年上海万博開催地付近を運行。②リニアモーターカー路線に連結。③他線路との乗入駅が多い。

・沿線商圈:既存1箇所、建設中0箇所

●既存商圈:①静安寺商圈(静安寺駅)

8号線

・開通時期:2007年12月開通 ・運行距離:約37キロメートル ・設置駅数:28駅 ・最短間隔:約 4分

・シンボルカラー:そら色 ・営業時間:5時半～23時半(始発～最終便の出発時間)

・特徴:①2010年上海万博開催地付近を運行。②閔行区から浦東エリアをまたぐ唯一の路線。③第3期工事、南伸延長線が予定されている。

・沿線商圈:既存2箇所、建設中2箇所

- 既存商圈①西蔵北路商圈(曲阜路駅)②金陵東路商圈(大世界駅)
- 建設中商圈①上南路商圈(成山路駅)②四川北路商圈(虹口足球場駅)

人民広場駅周辺商業施設(1号線)

人民広場駅(地下鉄1号線、2号線、8号線乗り入れ)の周辺にある「南京東路」商圈を見てみよう。ここは上海で最も古い歴史のある繁華街だ。開発開始は19世紀20年代頃という昔である。そのため、今でも30年代の荘厳な建物が多く、地方から上海を訪れる中国人にとっては、ショッピングはもとより、いにしへの国際都市上海の名残を求める観光も楽しめることから、以前から人気のスポットであった。この商圈で特に業績がよいのは、新世界城(2009年上海内百貨店単体売上高・第二位)と上海市第一百貨店(同第四位)である。この2店は、観光客(成人)のための商品仕入れ戦略が巧みであり、下に示す地図上の矢印が示す様に地下鉄出口から非常に近い。また南京東路上にあるよその百貨店へのアクセスもここを最寄の出口としているのも要因の一つと考える。この点でみると、来福士広場と上海百聯世茂国際広場などは、地方都市からの観光客よりも地元ホワイトカラーなど若い人をターゲットとしているため、一見さんの購入客層は薄い。一方、東方商厦はハイエンド路線を展開し、上海市第一百貨店と緊密な関係(原上海市第一百貨店東棟)をもちながらも売上実績では劣勢にある。

南京東路駅周辺商業施設(2号線)

まず、南京東路駅(地下鉄2号線、10号線乗り入れ)の周辺にある「南京東路」商圈を見てみよう。前回は人民広場駅(南京東路歩道街の西側)近くの百貨店を紹介したが、今回はその東側の状況を察しよう。バンド(外灘)に近いこの道りは、1920年代「永安」、「先施」、「新新」、「大新」の四大百貨店の人気で世界中で話題を呼んだこともあり、当時馬車の往来が多く、「大馬路」と呼ばれた。中華人民共和国の建国後は「南京東路」と名づけられ、さらに改革解放後は全国から観光客が殺到する「中華商業第一街」となった。

現状、南京東路歩道街の東側には置地広場を初め、永安百貨、華聯商厦、宏伊広場、353広場など数百店の各種商店(うち、有力ブランドの専売店がほとんどである)が立ち並んでおり、さらに地下鉄10号線の開通に伴い、その南京東路駅の真上(河南中路沿い)に「鴻基兆業」が企画投資した「名人購物中心」(英語名は HENDESON METROPOLITAN で、9階のショッピングセンタ+15階の高級オフィス)が2010年12月を目処に開店する予定で、河南の商業施設開発の新時代を宣言した。今後、南中路沿いの開発進捗が注目される。

中山公園駅周辺商業施設(3号線)

中山公園駅(地下鉄2号線、3号線、4号乗り入れ)周辺は「中山公園商圈」の西側にあたる。同商圈は長寧区東部の中枢的ショッピングゾーンである。市民の憩いのオアシスとして親しまれる中山公園を中心にした1.14km²の範囲である。交通網整備の角度から見ても中枢として機能する。3本の地下鉄以外に、29本の路線バスが運行している。1995年あたりから徐々にひらけたこの地域は、商業、ビジネス、居住、教育、行政、レジャーなど多機能一体化がみられる居住+オフィス地区である。複合商業施設は、「新寧購物中心」、「龍之夢購物中心」、「玫瑰坊商業街」の三箇所が連なるように存在し、蘇寧電器、国美電器など大型家電量販チェーンの出店もみられる。

将来的には、3号線・4号線の地上駅コンコース2階部分と駅周辺のこれらの百貨店・電器・書店など長寧路沿いの一連の商業ビルを空中廊下でつなぎ、龍之夢購物中心の食料品、飲食スタンドのある地下フロアをメインに、地下鉄2号線中山公園駅通路を含む「地下街型ショッピング施設」を増設整備する予定も立っている。当然、地下街建設には駐車場増床も含まれるため、従来から問題視されていた中山公園商圈エリアの慢性的駐車スペース不足の難問は解決をみるだろう。

塘橋駅周辺商業施設(4号線)

塘橋駅(他路線乗り入れなし)のあたりは、昔はまったく百貨店や大型店の姿も見えないエリアだったが、地下鉄4号線、6号線の開通で、通過流動人口が増大し、ウォルマート、高級ホテルなど基礎インフラも整備されつつある。そして、2007年に、これまで無かった商業施設の空白を埋めるよう、上海自由由集団の投資による「自由由国際広場」が落成した。この施設はショッピングセンター(6階)、シェラトンホテル(37階)、高級オフィス(23階)という構成になっており、建築面積21万平米の大型複合施設である。

この地域も、内側環状線(高架線)のサークル内にあり、いまや付近の分譲マンション価格は、すでに平均3万元/平米前後と、市内有数の繁華街に見劣りしない値段になった。近隣住民の購買力もかなり高いと見ていい。もちろん、ショッピングモールはこの1店だけで、未だ商圈を形成するところには至らないが、同じく浦建路西側の黄浦江ウォーターフロント再開発の今後の進捗状況や、周辺新築オフィスビルの増加、また新塘橋生活広場など周辺商業施設のココ入れに伴い、従来のレストラン消費・スーパーマーケット消費から、高級品購入の方向へレベルアップした消費行動が生まれ、陸家嘴エリアの延長として栄える可能性が十分窺える。

莘庄駅周辺商業施設(5号線)

莘庄駅(地下鉄1号線、5号線乗り入れ。22号線乗り入れ予定)は1号線ターミナルとして、この10年来毎朝晩のラッシュ時には足の踏み場もないほど激しい混雑にみまわれる。本来ならば夢の新興ベッドタウン・莘庄地区にこぞってマイホームを購入したサラリーマンたちは、ラッシュにもまれてクタクタにはなっても、巨大ターミナル駅という恵まれた立地の恩恵を十分に蒙るはずであった。残酷な現実ながらそれが叶ったのは、ほんのごく最近のことで、この一年ほどで先進的ショッピングモールと呼べる商業施設が駅ターミナル前によくデビューした。

同駅周辺初のショッピングモール・仲盛世界商城が2008年落成し大手スーパーカルフルと全国展開をしている百盛(パークソン)百貨店が中核テナントとして入居後仮営業を始めた。当時は上海最大級の30万平米という面積の広さゆえ大変な注目を集めた。その後、「CGV映画館」、キッズニア「星期八鎮」、ファストファッションの「ユニクロ」、「H&M」、「ZARA」、化粧品「SEPHORA」、カラオケ「好樂迪」など相次いでテナントが加わり、2010年9月の大々的な秋冬ショッピングフェアによりグランドオープンを果たし、その後テナント数はさらに増加した。

また、ベッドタウンとしてこの地域一帯が抱える常住200万人以上の人口に期待できる消費力の旺盛な成長をおおいに見込み、「凱徳龍之夢閔行広場」という別の商業施設もまもなく開業する予定になっている。これまではたいへんな不便を強いられていた、地下鉄1号線と高速鉄道で分断されてしまった莘庄駅の南北(地下鉄乗り換え通路を通過して往来するという迂回)の分割状態にある既存商業施設を連結させ、地下鉄1号・5号・22号・金山支線などここに集約される交通機関の集客力を見直し活用する方向で、閔

行区政府は莘庄駅の再開発計画をぶちあげた。リニューアルされる駅には地上約 40 万平米、地下約 10 万平米の空中回廊(上図)を併設するという。これが実現すれば、徐家匯に匹敵する巨大商圈の形成が期待できる。

金橋路駅周辺商業施設(6号線)

金橋駅(乗り入れ路線無し)の位置する金橋エリアは、産業誘致ニュータウンとして整備され、ソフトウェア、ハイテク企業が多数存在し、且つ外高橋保税區へつづく経路地でもあるため、近隣エリアも含めると 170 万人という巨大人口を抱える。金橋国際商業広場が出現する前は、この付近の住民は最寄りのヤオハンまでわざわざバスで行く不便を喫していた。したがって、付近の住民が主なターゲットとして設定されている。

同施設は第二のヤオハンを目指し、Morgan Stanley、香港崇邦集團が20億元を共同出資して建設した施設だ。目下、地下鉄6号線の沿線では唯一の大型ショッピングモールである。11の棟から構成され、うち一棟だけがオフィス用途であり、残りの10棟は2~4建ての商業用途のビルである。色調を抑えたグレー、白、ベージュの落ちついたナチュラルカラーをベースに「ショッピングモールにあるガーデン、ガーデンの中のショッピングモール」という緑化率の高い有機的モールのコンセプトが金橋国際商業広場の最大の特徴である現在、ここに出店する小売販売、レストラン、アミューズメント、生活サポートなど、カテゴリー別の各テナント比率は5%、25%、12%、18%をそれぞれ占めている。A(ファミリーで楽しめる区画)・B(ファッション・ウェアのおしゃれ街)・C(香港発のファッションブランド DBHK など専用区画)・D(メルセデスベンツ車両展示ラウンジ)の4つのエリア区分がなされている。

現在、同施設の周辺では環状バイパス高架道の「中環線」が建設中であり、完成すれば地下鉄6号線との実効的シナジーが期待される。このように、上海市ではベッドタウンや工業地帯がひろがる郊外地域における商業施設の増強策が、まさに現在進行形で盛んに行われている。

静安寺駅周辺商業施設(7号線)

静安駅(地下鉄2号線、7号線乗り入れ、14号線乗り入れ予定)周辺は、高級なホテルやオフィスビルだけでなく、レストラン、デパートなども高級路線の有名店が林立する高地価デラックス商業地帯である。92年ごろまでは一面農地であったところが、急速な開発事業で忽然と姿を現した中国版ウォールストリート、陸家嘴金融エリア(陸家嘴商圈)と同じ高水準の賃貸料レベルを維持しつつ、密集する一般庶民用の国民住宅団地に隣接した住商連結地域ならではの生活関連施設の充足が特徴である。国民住宅団地をさておいても、静安駅が位置する静安区に居住するのは富裕層が多数を占めるだけに、この地域の百貨店の売り場を飾る高級商品レンジも一段と高い。

まず、この一帯で外国商品を総合的に網羅した豊富な品揃えと大型店舗規模を誇るのは、ほかでもない久光百貨である。ここは2004年上海九百集團が、香港そごうを統括する利福国際集團(Lifestyle International Holdings)と共同設立した合弁会社である。計画段階から明確に打ち出されていた純日本式管理体制は、そごう出身の4人の日本人スペシャリストたちが自ら陣頭指揮に当たることで実現された。日本国内同等のきめ細かい運営が保障され、且つ、レベルを落とすことなく現在でも継続運用されている。仏教聖地の古刹として、また観光スポットでもある静安寺の高い集客力、周辺高級オフィス在勤の可処分所得の多いホワイトカラー、近隣住居者である富裕住民の恐るべき消費力が、このデパートの安定客層を

担保する形になって繁栄をもたらしている。

それを狙って、米国系華僑のPEファンドによる越洋広場(投資額約3.5億米ドル)、香港九龍倉集団が開発する会徳豊国際広場(投資額約23億元)、すでに成功実績を持つ嘉里センター2期(嘉里建設社とシャングリラ社が共同出資、投資額約50億元)などのプロジェクトに包括されるビル建設案件も、例外なくオフィスとラグジュアリーホテル、超高級百貨店、VIP御用達ジムなどを併設する計画になっている。今後このエリアでは、デパート全体のレベルがより一層高級方向にシフトすると見ていい。

また、これらの新規プロジェクトの建設は、南京西路と延安西路周辺の公共施設の普請や環境一新にも寄与する。この2本の通りに面するオフィス、デパートなど商業施設間の距離を短縮し、十字型乗換え駅(地下鉄2号線、7号線)をベースにまとまった一大商圈の展開が期待できる。

大世界駅周辺商業施設(8号線)

大世界駅(現状乗り入れ路線無し、将来14号線乗り入れ予定)の名称は、近隣の「上海大世界遊楽中心」に由来する。同施設の歴史は非常に古く、1917年落成当時でも極東エリア最大規模を誇る娯楽の殿堂であった。演劇、講談、曲芸、レビュー、映画等、多彩な芸能活動の拠点として、上海コスモポリタンたちの社交の場として人気を博した。数年前まで廃墟寸前の老朽した姿を晒していたが、再開発の対象に組み込まれ、昔の栄華を復元すべく目下リニューアル工事がおこなわれている。

この周辺の位置づけは淮海東路の東端で、オフィス街という性格が色濃い。至近に南京東路商圈や淮海路商圈があるが、これら近隣商圈から徒歩で移動しやすいロケーションではない。したがって、地元の住民やこの地域のオフィスビル在勤のホワイトカラー以外には消費ターゲットが見込めなかった。ところが、8号線の開設がそれを一変した。大きな恩恵を浴したのが、大上海時代広場と上海無限度広場である。特に、大上海時代広場の施設内や周辺には、もともと超高級マンション・サービスアパートメントが多いため、相乗効果も著しい。

また、同駅の周りには上海音楽庁(ホール)、上海博物館などの公共の文化施設があり、雲南路エスニック美食街の通りに並ぶ中国風に外観が統一され特色ある建物群が、ちょっとした旅情をかもし出す風情ある雰囲気になっており、新規商圈の隆盛の一助となるだろう。また、地下鉄14号線の開通も商圈の成長に加速作用をもたらすと期待されている。

■まとめ

上海地区の経済力アップにともなって、上海市内各商圈とも飛躍的に進展している背景には、人の流れを作り出す地下鉄も大いに一役かっているのだ。その理由として、2010年上海百貨店単体売上ランキング上位店は前年資料とおり、殆ど駅と直結(下図一覧ピンク色)している、または、すぐ間近の駅周辺部(水色)に位置している百貨店であるからだ。地下鉄との直接アクセスのない百貨店(黄色)でも、将来地下鉄の建設を予定している。すなわち、現在、地下鉄アクセスの考慮無しには上海商圈は語れないと言っても過言ではないだろう。上海でのブランド展開と商品攻勢を積極的に検討する場合、今後も次々に新路線が開通する地下鉄網の発達に注目したうえで最新状況を常時把握することを、上海進出戦略のひとつとして是非取り入れていただきたい。同資料でも去年のデータとの比較において、利用可能路線増数・新規乗り入れ拡大が特徴として見られる。地下鉄によって連結・連動をする商業施設の輪がますます増長してゆく模様が顕著になっている。

2. 上海市概要

上海は、中国最大の経済中心の都市であり、中国最大の貿易港、総合的な工業、科学技術の基地である。上海は国際化した現代都市であり、中国の対外開放の窓口で、日本、アメリカ、オーストラリア、フランス、イギリス、イタリア、ドイツ、ロシア等の国が上海で総領事館を設けている。現在、上海市は日本の大阪、アメリカのサンフランシスコ、カナダ、ロシア等の都市と姉妹都市契約を結んでいる。上海の代表的な建物には「東方明珠テレビ塔」や「金茂大廈」、「上海国際会議中心」、「浦東国際空港」などがある。現在、上海は近代的、国際的な都市の見本として発展し続けている。

(1) 歴史

上海は略称として、「滬」(コ)あるいは「申」(シン)と呼ばれている。もともと漁業や塩業を中心とする小村だが、13世紀末に上海県が設けられて以来、17世紀になると海上交通の要所となった。揚子江沿岸諸都市はもとより、遠く日本とも交易が行われていたという記録が残っており、港町として繁栄していた。

1842年にアヘン戦争後の南京条約により、上海港は諸外国に対して開港、1845年にはイギリス租界、1848年にはアメリカ租界、1849年にはフランス租界が成立。租界は1943年まで存続した。

中華人民共和国の成立後は、対外機能を喪失したが、中国最大の都市、最大の港としての地位を維持した。1990年、浦東地区開発が国家のプロジェクトとして開始されたことを契機に、東アジアの金融、貿易センターの一つとして急速に発展した。

(2) 地理位置

上海市は中国東海岸中部、揚子江(長江)の入江に位置しており、長江三角州沖積平野で、地勢は極めて平坦である。江蘇省、浙江省に隣接し、江南の水郷地帯に属す。東経121度、北緯31度で鹿児島市とはほぼ同緯度に位置している。

(3) 気候

上海の気候は亜熱帯に属し、四季がはっきりしている。夏は太平洋高気圧の影響下に入るため南東風がよく吹き込み、蒸し暑くなる。冬はシベリア、モンゴル方面にある高気圧の影響で空気が乾燥して寒い。降雪はあまりない。日本と同様、梅雨がある。

(4) 区、人口、面積

上海は1927年に市となり、中国の4大直轄市の一つであり、黄浦、浦東新区(2009年初南匯は浦東新区と合併した)、長寧、静安、徐匯、盧湾、楊浦、普陀、宝山、閘北、虹口、閔行、嘉定、松江、金山、青浦、南匯、奉賢、川沙、崇明の2019行政区画より構成されている。

2008年、上海の人口数は1371,041,368.1万人(都市戸籍保有者)であり、出稼ぎ労働者等を含めて、1,888,815万人である。

上海の面積は、6,340 km²で、東京都の約3倍である。

(5) 交通状況

① 地下鉄

上海は、地下鉄が発達している。合わせて6号線(路線)あり、上海市内から郊外まで通じている。

② 道路構成

上海市内に高架による環状線が一般道路の上に走っている。その環状線の中心部は南北で南北高架及び東西を走る延安路高架2つによって構成され、外へと第1層の内環線、第2層の中環線、第3層の外環線がある。その第1層の内環線は、ほぼ中山環路に沿い、上海市を2分する黄浦江の上に、南浦大橋と楊浦大橋で浦西と浦東を連結している。

③ 上海駅と上海南駅

上海には、上海駅と上海南駅がある。上海南駅は世界初の透明ドームで、外観上はまるでサッカースタジアムのようなものである。総面積は60ヘクタール。鉄道、高速バス、地下鉄、バス、タクシーなど5種類の交通機関が集まる交通要所である。

上海市の北側にある上海駅は、市内を貫通する地下鉄1号線、3号線、4号線によって連結し、中国の北方へ向かう列車の始発駅となる。

中国南地方に向かう列車の始発駅は上海市の南側に設置された南駅である。